

令和6年度 第3回学校運営協議会 会議録 (要点記録)

- 1 開催日時 令和6年11月18日(月) 13時50分から15時35分まで
- 2 開催場所 与進北小学校 ひだまり
- 3 出席委員 栗田 孝代、中根 その美、森田 良信、佐藤 真、高杉 威一郎
石田 みゆき(学校支援コーディネーター)
田光 美智代(学校支援コーディネーター)
- 4 欠席委員 西村 進也
- 5 オブザーバー 村田 弘貴(長上協働センター主事)
- 6 学校 河合 勝之(校長)、山田 正典(教頭)、各務 哲人(CS担当)
瀧本 恵子(CSディレクター)
- 7 教育委員会 井島 健蔵(教育総務課)
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 瀧本 恵子

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、栗田会長から中根委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを了承した。

11 協議事項

(1) 報告

- ・ 学校教育活動への地域支援の報告
- ・ 全国学力調査

(2) 本校のCSの成果と今後の方向性について

- ・ グループでの話合い
- ・ 全体での話合い

12 会議記録

司会の山田教頭から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 報告

議長の指示により、学校支援コーディネーターの石田委員から、学校教育活動への地域支援について別紙の資料を基に以下のように報告があった。

- ・ CSでの授業支援が先生方に浸透してきた。振り返りの授業や、これからどう生かしていくかまで考えるように指導をしている。

- ・ 子供たちが話をしっかり聞くことができ、話し合って意見を出すことができた。
- ・ 地域の気になる企業を教えてほしい。支援をきっかけに地元の企業を知ることができ、子供たちも地元だと身近に感じることができる。

続いて議長の指示により、教務主任から全国学力調査について別紙の資料を基に以下のように報告があった。

- ・ 教科に関する調査では、国語も算数も応用問題が解けていなかった。
 - ・ 国語では、登場人物の言葉の裏に隠されている意図が何か、想像力を働かせることができているという課題が見られた。
 - ・ 算数でも、深く考えていないことで解けていない問題があった。問題文を正しく読み取り、反復練習をしていくことが必要である。また、「なぜこうなるの？」ということを問い続けることで、子供たちが考える力を小学校の6年間で身に付けられるように指導していく。
 - ・ 質問紙による調査では、「学習が将来役に立つ」と思っている子が多かった。一方で、「国語の勉強が好き」と答えた児童の割合が4割程度で、昨年度の5割より減った。
 - ・ アンケート結果から、起床する時間は一定でも就寝する時間がばらばらで、1日の内かなりの時間をICT機器の使用に費やしているため、学習時間を確保できていないことが分かった。また、本を読む子、読まない子の差が大きく、新聞は取らない家庭もあって活字に触れる機会が減っている、という課題が見られた。
- 議長より以上について質問等があるか確認があり、全員異議なく了承した。

(2)本校のCSの成果と今後の方向性について

本年度行った支援と来年度行う支援についてA・Bの2グループに分かれて話し合いをした。

- ・ Aグループ 栗田会長・佐藤委員・高杉委員・石田委員(記録：山田教頭)
- ・ Bグループ 中根委員・森田委員・田光委員・村田さん(記録：各務教諭)

グループでの話し合いの内容を全体で発表した。

〈Aグループ〉

- ・ 今までの活動の成果として、学校での活動を知ることができた。子供の主体性を後押しできた。地域、企業の人とのつながりが刺激になる。子供たちからお礼の手紙をもらうとやりがいを感じる。CSの話し合いが活発に行われている。授業支援をしてくださる方が子供たちをほめてくれるため、子供の喜びとなっている。
- ・ 見直しをしていきたいことは、「ながら見守り」の周知が足りていない。個人で活動するのは難しく、PTAと関わりながら安心・安全という雰囲気作りが必要だと思う。他の学校のCSの情報を知りたい。民生委員が与進中学校区3校でボランティアをしているが、民生委員だけでは人手が足りない。在校生とその家族以外の人たちへの情報発信が足りない。運動会で借りた法被の返却について、今回は個人で洗濯した

が、クリーニングやお礼など、不公平のないようにしたい。また、子供たちは自分の町の法被を借りたいと思っている。

- ・ 今後、継続や新たに取り入れていきたいことは、情報発信の場として、地域の運動会等の催し物等でアナウンスをしていく。協働センターに掲示をする。ボランティアの役割として、授業支援はCSを中心に、活動支援は別組織を考えていきたい。また、ボランティアの担い手として、民生委員や地区社協、シニアクラブの他に、同好会や市民団体等新たなボランティアの受け手の開拓をしていく。個人ボランティアはCSで集めるが、取りまとめは協働センターの地域学校協働ボランティアにしてもらう。
〈Bグループ〉
- ・ 今までの活動の成果は、企業の支援や神社巡りを通して、地元の人々とのつながりができた。そのつながりから、あいさつを通してのつながりができ、どんどん新しいつながりができる。その結果、子供たちが自分のこととして捉えるようになり、地域の大人も子供のことを見るようになった。
- ・ 見直しをしていきたいことは、昨年度のよきたカフェのようなCSと学校がもっと近づく場がほしい。地域の活動に親の都合で参加できない子も含め、子供たちと地域の結び付きを強めたい。
- ・ 今後、継続や新たに取り入れていきたいことは、そろばん等、今では使われなくなってしまったものに触れる機会をつくりたい。また、勉強以外で身に付けなければいけないものが体験できるように、地域で機会を設けていきたい。子供と地域がつながるような活動を行う。地域に関わらない人たちをどう取り込んでいくのかも考えたい。議長より、以上について意見があるかの確認があり、委員より以下の発言があった。
- ・ 運動会に貸し出す法被について、自分の町の法被が良いなら、子供会や自治会を通して頼んだ方が早いと思う。自分の町内の子のためなら、地域も貸し出しやすい。(森田委員)
- ・ 他の学校のCSの活動は、各校のホームページで見ることができる。また、コーディネーター研修会があるので、そこで聞いたことを報告する。(石田委員)

13 その他、連絡事項等

浜松市教育委員会の井島指導主事より、本校のCSが充実した話合いをしている。引っ込み思案な子が多くなっているので、社会とつながることを実体験で学ぶと良い。地域と学校が目標を共有し、学校便りやCS便り等で丁寧に伝えていくことが必要だという話があった。

教頭より、次回会議は2月17日(月)13時45分からひだまりで開催する旨の報告があった。